

提供日 2019/9/3

タイトル 第2回「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」を開催します

担当 公益財団法人静岡県文化財団 事業課

連絡先 TEL 054(203)5714

静岡県文化財団

記者提供資料

**【静岡県文化プログラム】「ふじのくに伝統芸能フェスティバル
～地域とともに、大人から子どもたちへ～」を開催します！
～県内で伝統芸能に取り組む団体の実演披露と次世代への継承を考えます～**

1 要旨

公益財団法人静岡県文化財団・グランシップと静岡県文化プログラム推進委員会は、「静岡県文化プログラム県域プログラム」として、第2回目の「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」を開催します。このフェスティバルは、2020年東京大会に向けた文化プログラムとして、2019年～2020年の間に3回シリーズで開催予定です。第2回目は、県内の伝統芸能団体の実演や活動紹介、様々な工夫と努力によって、子どもたちへの継承や地域振興の事例紹介などを行います。

地元の子どもたちが積極的に活動している芸能は、地域の祭りや学校行事の中で息づき、子どもたちのアイデンティティを育んでいます。県内の様々な伝統芸能を知る機会とするとともに、団体の今後の伝承について、ともに考える機会とします。

2 概要

| 区分 | 内容 |
|------------|--|
| 公演名 | ふじのくに伝統芸能フェスティバル～地域とともに、大人から子どもたちへ～ |
| 日時 | 令和元年9月22日（日）14:00～16:00 |
| 会場 | グランシップ 中ホール・大地（静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号） |
| 内容 (予定) | 【第1部】 ○静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部（実演） ○笹間神楽保存会／神楽「三宝太刀の舞」（実演）、笹間地区の紹介 ○獅子舞かんからまち保存会／演舞「道行」（実演） ○遠州横須賀三社祭礼囃子保存会／演舞「般若」（実演）／掛川市の紹介 【第2部】 ○伊豆地域の三番叟について／橋本敬之 ○「伝統芸能子どもサミット」実施報告 ○装束付舞囃子『三輪』／観世流能楽師・長谷川晴彦 ○富士宮囃子保存会紹介 ○静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部（実演） |
| 出演 | 笹間神楽保存会（静岡県島田市川根町） 島田市川根町の笹間上地区には、駿河神楽の流れを汲む笹間神楽が伝えられている。戦後途絶えていた笹間神楽を当時の青年団が復活し「笹間神楽保存会」を結成。地域の文化遺産の保存を図ると共に、地域の活性化にも貢献。地元の川根中学校の生徒たちに3つの舞を伝授し、保存会員が指導を続け現在に至っている。（島田市指定無形民俗文化財） 遠州横須賀三社祭礼囃子保存会（静岡県掛川市） 三社祭礼囃子は三熊野神社の例大祭の御幸に供捧する山車（禰里）として受け継がれている。その囃子は江戸時代、横須賀城主参勤交代の際にその家臣に江戸の祭礼囃子を習い覚えさせ、横須賀に伝えたとも言われる。保存会は昭和30年に結成され、長年にわたり囃子の伝承・保存のために活動。時代背景に合わせながら活動を創意工夫し、特に子どもたちへの継承に力を入れ、年齢に合わせた丁寧な指導を行っている。（静岡県指定無形民俗文化財） 獅子舞かんからまち保存会（静岡県掛川市） 「かんからまち」は3年に1度行われる掛川大祭の三大余興の一つとして知られる。行列と3党の獅子から成る芸能神事であり、例大祭の神輿渡御の先駆けとして重要な役割を果たす。由来に関しては諸説あるが、長い歴史を脈々と継ぐ「かんからまち」を、少子高齢化・人口減少といった課題を抱えながらも約40世帯の掛川市瓦町の人々が保存会を結成し、伝承している。 |

| | |
|--------|---|
| | <p>静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部（静岡県静岡市） 平成24年に旧静岡市立商業高等学校と旧静岡県立静岡南高等学校が統合して新設され、「音楽としての和太鼓」を大切に、日々稽古に励む。部員数は50名を超え、多くの人々に和太鼓の面白さや奥深さを伝えるため、年間を通じて積極的な公演活動を県内外で行っている。</p> <p>長谷川晴彦（観世流能楽師）  シテ方観世流能楽師・重要無形文化財総合認定（能楽）保持者。観世流準職分、能楽協会会員、公益財団法人梅若研能会評議員。1969年掛川市生まれ。掛川市立掛川第二小学校、掛川市立掛川西中学校、静岡県立掛川西高等学校卒業後、上京。1989年大学在学中に観世流の名門、梅若万三郎家に入門、観世流の研修生となり三世梅若万三郎に師事する。1997年に観世流準職分の認定を受け、翌1998年に国立能楽堂にて独立披露能を主催。以来、東京、静岡を中心とした全国各地ならびに海外13カ国での能公演に出演するほか、各地での能楽普及活動に努める。</p> <p>岩下尚史  作家。國學院大學客員教授。新橋演舞場(株)退社後、芸者の発生と変遷について著した『芸者論』にて、新人としては異例の第二十回和辻哲郎文化賞を受賞し、本格的な作家活動を開始。その他、三島由紀夫の恋人への取材を基に書き下ろした『見出された恋』、『ヒタメン』などの著作がある。また、日本の伝承芸能や古典的な暮らしについてのエッセイ等も多数著している。現在、季刊「美しいキモノ」（ハースト婦人画報社）、「銀座百店」（銀座百店会）にてエッセイを連載中。2019年1月より「北國新聞」にてエッセイ「オトナの金沢」が連載スタートした。グランシップマガジン内コラム「伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。」も好評連載中。</p> <p>橋本敬之（NPO法人伊豆学研究会理事長）  NPO法人伊豆学研究会理事長、公益財団法人江川文庫学芸員、伊豆市文化財保護審議員、伊豆の国市文化財保護審議委員長として、伊豆地域の文化財の保護や利活用、自然環境の保全、まちづくり活動を行い、地域の活性化を図っている。NHK「プラタモリ」案内役を務めた。東京・中日新聞「再発見伊豆学講座」連載中。＜著書・共著＞『幕末の知られざる巨人 江川英龍』（角川SSC新書）、『しずおかの文化17 幕末の産業革命 葦山反射炉～伊豆葦山代官 江川太郎左衛門の挑戦～』（しずおかの文化新書）他多数</p> <p>司会：久保ひとみ  浜松市出身。テレビやラジオのレギュラー番組、CMなど多数出演し、タレント活動歴は23年以上。明るく親しみやすいキャラクターで「静岡の元気印」として県内での知名度は抜群。</p> |
| 観覧申込方法 | <p>入場無料（事前申込制・先着順） 電話またはグランシップホームページ内のWEBフォームからお申込みください。電話の方は、お名前・住所・電話番号・参加人数をお知らせください。 TEL：グランシップチケットセンター 054-289-9000（10:00～18:30） WEB：https://www.granship.or.jp/entryform/</p> |
| 今後の予定 | ＜第3回＞2020年5月下旬 富士宮市民文化会館、富士山本宮浅間大社 他 |
| 主催 | 公益財団法人静岡県文化財団、静岡県文化プログラム推進委員会、静岡県 |

3 取材申込・お問い合わせ

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者：（公財）静岡県文化財団 事業課 電話 054-203-5714 （担当：渡邊・河合・原田）